

「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証し、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしたVIEWnext高校版2021年8月号・特集はこちら▶



「マイ・ストーリー」とは、生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を指す。総合型選抜や学校推薦型選抜（以下、推薦型選抜）を始めとするこれからの大学入試に向けて、「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力を生徒に育む実践事例を紹介する。

3年次1学期

志望理由書作成の支援

第1志望届や図書レポートを基に、内面を掘り下げた問いを繰り返す

北海道旭川永嶺高校^{えいりょう} 進路指導部と3年次団

マイ・ストーリー
3年次1学期
の課題

- ・ 大学・学部の特徴の要約と、自身の活動記録に終始した志望理由書に、志望に至るまでのプロセスを盛り込む
- ・ 自分の将来と結びつく志望校を見いださせる

3年次4月からの個別指導で、将来像の言語化を支援

2016年度に2校が統合して開校した北海道旭川永嶺高校は、生徒が進路意識を早期から高められるよう、進路指導を充実させてきた。現在は、1年次から進路講演会や模擬試験などの振り返りを「キャリアノート」に蓄積させ、2年次には、看護体験や小学校見学などの体験学習を実施。2年次の1月には、目標とする大学とその志望理由を約800字で書く「第1志望届」を提出させて、3年次進級を前に、受験生としての自覚を促している。

加えて、推薦型選抜の希望者には、2年次の春季休業中、志望学部・学科に関する書籍を読んで感想を書く「図書レポート」を課す。専門分野について意見を語れるだけの知識や書く力があるかを、生徒に確認させるためだ。そのようにして、生徒が自身の進路に真摯に向き合い、「マイ・ストーリー」を言語化する機会を設けるなど、希望進路の実現に向けて早く動き出すための支援体制を整えたと、進路指導部長の水野雅文先生は語る。

「生徒は、日々の学習や部活動などに追われて将来を考えられていないだけで、きっかけさえあれば動き出します。それぞれの取り組

志望校と将来像のずれが早めに顕在化し、問い直しが可能に

志望理由書作成の個別支援は、将来像に対

みの中には、自発的に志望理由書の添削を教師に依頼してきたり、知識不足を痛感して読書に励むようになったりする生徒もいます」

3年次4月には、例年約40人を超える推薦型選抜希望者一人ひとりに担当教師をつけ、志望理由書作成の個別支援を本格化させる。2年次の第1志望届では、大学案内などを参照して要約した大学の特徴や研究内容を、理由もなく自分の志望と合致していると記述するだけの生徒が大半だ。体験談を書いても、活動内容の説明に終始し、体験によってもたらされた成長や将来像を、大学の学びに結びつけて表現することができていない。そこで、キャリアノートや第1志望届、図書レポート、生徒が自身の長所や短所をまとめた「自己紹介カルテ」などを基に、生徒に丁寧に志望に至るまでのプロセスを問いかけるなどして、志望理由書の作成を支援していると、3年次主任の安井健治先生は話す。

「教師の『どうして?』『なぜ?』という問いかけに、生徒は、ただただどしどしか答えられない自分に気づき、内面を掘り下げていきます。時間がかかっても、そうしたやり取りを繰り返して、内面を言語化させて、『マイ・ストーリー』を形づくっていきます」

マイ・ストーリーを育む 一連の支援

1年次～3年次

職業人講演会や大学見学、大学出前講義などの進路行事での気づき・感想、模擬試験の目標・結果・振り返り、職業・学問適性診断の結果などを「キャリアノート」に蓄積。

2年次冬季休業

「第1志望届」として、第1志望校を志望する理由を約800字で作成。保護者のコメントと押印も添えて提出。

2年次3月

進路指導部と2年次団で、2年生全員について、生徒の希望進路と志望校が合致しているか、総合型選抜・学校推薦型選抜に向いているかなどを確認する検討会を実施（放課後に2日間）。総合型選抜・学校推薦型選抜の希望者は学問分野ごとにグループングし、グループ単位で指導にあたる。

2年次春季休業

総合型選抜・学校推薦型選抜の希望者は、「図書レポート」として、志望学部・学科に関連する書籍を1冊以上読み、①読み終えた感想、②何を学び取ったか、③自分の意見などを書く。加えて、志望校のアドミッション・ポリシーも調べて記入する。

3年次4月

3年生全員に二者面談を実施。3月の検討会の内容を踏まえつつ、希望進路を確認する。総合型選抜・学校推薦型選抜の希望者は、自己紹介カルテ（志望校のアドミッション・ポリシー、志望大学・学部・学科の特徴、自分の長所・短所、趣味・特技などを記入）を作成し、担当教師に提出。**志望理由書作成の個別支援を本格的に開始。**

3年次7月

総合型選抜・学校推薦型選抜入試ガイダンスを実施。生徒・保護者に受験の意思を最終確認。

3年次8月以降

小論文・面接の個別指導を本格化。

※学校資料と取材を基に編集部で作成。



後列左から／山田訓之（進路指導部副部長）、近江谷優介（3年次担任）、岸本浩昭（3年次担任） 前列左から／水野雅文（進路指導部長）、安井健治（3年次主任）

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

学校概要

- ◎設立 2016（平成28）年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約240人
- ◎2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、小樽商科大、帯広畜産大、北見工業大、北海道教育大、北海道大、室蘭工業大、新潟大、静岡大、釧路公立大、名寄市立大などに45人が合格。私立大は、旭川大、北星学園大、北海学園大、専修大、東洋大、法政大、明治大、立教大、立命館大、関西学院大などに延べ269人が合格。

北海道旭川永嶺高校 進路指導部と3年次団の教師たちの進路指導をさらに詳しく紹介！

VIEWnext ONLINE ▶▶▶



して適切な志望校を見いだせていない生徒と早期に向き合う機会にもなった。

3年次担任の近江谷優介先生が担当した推薦型選抜希望者は、第1志望校に室蘭工業大学を挙げ、家業の農業に役立つ農業機械の研究をしたいと語った。近江谷先生は、北見工業大学も選択肢に挙げたが、反応は芳しくなかった。よく聞くと、札幌市に近い室蘭工業大学を志望する友人が多い点にもこだわっていた。そこで、近江谷先生は、水野先生に相談し、両大学の農業機械の研究を詳細に調べて生徒に伝え、生徒は自分でも調べた上で、納得して第1志望校を北見工業大学に変更。面接では、家業と農業体験、大学が力を入れてる農業機械の研究を結びつけて志望理由を語ることで、合格をつかんだ。

「志望校変更は、それが将来像に合致してい

ても、生徒が考えを整理し、納得するまでに時間を要します。図書レポートや自己紹介カルテなどで潜在的な希望も含めて生徒の意思を把握する中で、志望校に違和感を覚えたら、早めに生徒に確認しています」（近江谷先生）

3年次7月に「入試ガイダンス」を行う頃には、多くの生徒が志望理由を明確に語るようになるため、8月以降は、自分の意見や表現力が問われる小論文や面接の指導に十分時間をかけることができている。そうしたことが奏功し、21年度大学入試では、推薦型選抜の受験者のうち、約半数が合格を果たした。

「志望校合格は、自己実現への1つの通過点です。生徒には、『自分のストーリーのゴールはどこにあるのか』と何度も問いかけ、未来を見据えた『マイ・ストーリー』を語る力を育んでいきたいと思っています」（水野先生）